



クラゲの口とこう門は、どこにあるの

クラゲの体には、こう門はない

クラゲは、イソギンチャクやサンゴなどと同じ仲間(こう腸動物)に入ります。この仲間は、5億年前ごろの化石が見つかるほど、昔からいる動物です。今たくさん見かける、ほかの動物と比べて、体の作りが、単純です。

こう門や、全身につながった血管などが、まだありません。また、この仲間は、たいてい、触手に毒針をもっています。

クラゲの口は、かさの下の中心にある

クラゲの種類によって少しちがってきますが、クラゲの口は、かさの真ん中にあり、口の周りには、4～8本の口腕がついています。

口につながった、こう腸(クラゲでは胃のかわりになる部分)から、クラゲのかさの、ふちのほうに管(放射水管)がつながっていて、この管で、消化した栄養分や、呼吸のための酸素や、体の中でいらなくなったものが運ばれます。

こう門のないクラゲは、えさの食べ残しや、体内でいらなくなったものを、口から外に出します。(監修・安部 義孝)

クラゲの体のしくみ

